

このたびは、シチズンクオーツウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保存し必要に応じてご覧ください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡又は重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）



このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

この時計は、日本国内の標準時刻電波（時刻情報）を受信して、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。東局（おおたかどや山標準電波送信所）と、西局（はがね山標準電波送信所）の電波受信の切り替えができ、受信範囲を広げました。また、光エネルギーを電気エネルギーに変換して、時計を駆動させる、光発電機能を持ったアナログソーラーパワーウォッチです。ソーラーセルに光が当たっていないときの時計の電力消費を抑える、パワーセーブ機能等も搭載しています。

■電波の受信環境が悪い場合には

●受信ができない場合があります。その場合は時刻及びカレンダーは修正されません。

●受信をしてもまれに時刻及びカレンダーが正しく修正されない場合があります。このような場合は、6ページの電波受信機能についてを良くお読みの上、再度受信（強制または自動）を試みてください。もし、時刻及びカレンダーが正しく修正できない場合は、シチズンお客さま時計相談室または最寄りの弊社サービスセンターへご相談ください。

◆シチズンお客さま時計相談室 0120-78-4807
受付時間 9:30～17:30(祝日を除く月～金)

目次

1. ご使用になる前に	6
A. 電波受信機能について	6
〈上手に受信をするために〉〈受信が困難な場所について〉〈受信可能地域の目安〉	
B. 光発電機能について	10
2. 受信局を切り替える方法	11
〈受信局の切り替え方法〉	
3. 電波の受信方法	12
4. 電波受信による時刻、カレンダーの合わせ方	13
A. 電波受信(定時受信と強制受信)の方法	14
B. 電波受信中は受信レベルを表示します	15
C. 電波受信結果を表示します	16
〈受信結果の確認方法〉	

D. 復帰自動受信	17
E. 復活自動受信	17
5. 手動による時刻・カレンダー合わせ	18
A. 表示切り替え	18
B. 秒と分の修正方法	19
C. 経過年と月の修正方法	20
〈非存日に合わせた場合〉〈月と年の見方〉〈うるう年からの経過年早見表〉	
D. 時と日付の修正方法	22
6. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について	24
A. パワーセーブ機能について	26
〈パワーセーブ1〉〈パワーセーブ1の解除方法〉〈パワーセーブ2〉〈パワーセーブ2の解除方法〉	
B. 充電警告機能	29
C. 時刻合わせ告知機能	30
D. 過充電防止機能	30
7. ソーラーパワーウォッチ充電時間の目安	31

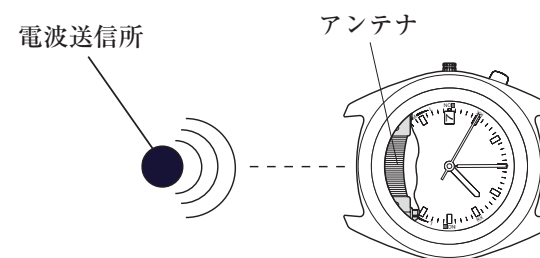
8. ソーラーパワーウォッチ取り扱い上の注意	33
充電上の注意 / 二次電池の取り扱いについて / 指定の二次電池以外は使用しないでください	
9. 基準位置合わせ	35
A. 基準位置の確認方法	35
B. 基準位置の合わせ方	36
〈基準位置合わせ時のモード切り替え〉	
10. オールリセットについて	38
11. このような場合には	40
12. セラミックケースについて	41
13. お取り扱いに当って	41
14. 保証とアフターサービスについて	50
15. 製品仕様	52

1. ご使用になる前に

A. 電波受信機能について

〈上手に受信をするために〉

- ・この時計は、ケースの内部12時位置に、電波受信用のアンテナが組込まれています。上手に受信するためには、時計の12時位置を電波送信所の方向に向けて受信するのが理想です。
- ・何度か受信局を切り替えて受信し、受信しやすい局を選んでください。また、時計の向きや場所を変えて受信を行い、あらかじめ受信しやすい場所及び、方向を探しておくにより確実に受信することができます。
- ・安定した受信をするために、受信中は時計を動かさないでください。
- ・電波は、金属のしゃへい物や環境により受信しにくいことがあります。建物内などでは、できるだけ窓の近くで受信してください。



〈受信が困難な場所について〉

次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では、電波を正確に受信できないことがあります。

- (1) 極端に高温や低温の場所
- (2) 鉄筋コンクリート建物の中、高層ビルや山などの谷間、地下。
- (3) 車、電車、飛行機の中。
- (4) 高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く。
- (5) 通話中の携帯電話の近く。
- (6) テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く。

〈受信可能地域の目安〉

この時計の標準時刻電波の受信可能地域の目安は次の通りです。

ただし、時間帯や季節変化、天候（雷など）などにより、受信可能地域が変化する場合があります。

受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

受信局	標準時刻電波	送信所所在地
東局 (E)	JJY (長波標準電波)	福島県田村郡都路村／ 同双葉郡川内村境界大鷹鳥谷山山頂付近 (おおたかどや山標準電波送信所)
西局 (W)	JJY (長波標準電波)	佐賀県富士町／福岡県前原市境界羽金山山頂 (はがね山標準電波送信所)



B. 光発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。一度フル充電すると、約8.7年（パワーセーブ2状態のとき）は充電しなくても正確に時刻を刻み続けます。

パワーセーブ：ソーラーセルに光が当たらず発電が停止すると、パワーセーブ機能が働いて時計の電力消費を抑えます。（詳しくは「6—A. パワーセーブ機能について」を参照ください。）

〈この時計の上手な使い方〉

この時計を快適にご使用頂くためには、常に余裕を持って充電することを心がけてください。この時計はどんなに充電しても過充電の心配はありません。（過充電防止機能）

充電の際は、文字板（ソーラーセル面）に光を当ててください。

〈時計は常に充電を心掛けてお使いください〉

- ・日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
- ・時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心掛けると、時計は常に正しく動き続けます。

2. 受信局を切り替える方法

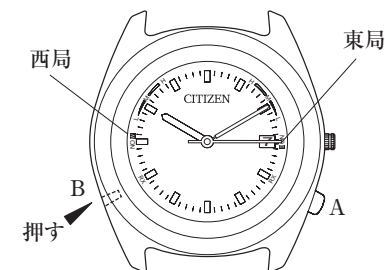
(B) ボタンを押すと、受信局が切り替わります。

〈受信局の切り替え方法〉

- ・(B) ボタンを押すと秒針が高速運針で受信局（東局又は西局）へ移動し、約10秒間受信局を表示します。10秒間表示した後自動的に通常運針へ戻ります。また、表示中に(A) ボタンを押しても通常表示に戻ります。
- ・受信局は(B) ボタンを押すごとに切り替わります。

注意

- ・受信局の切り替えは、時計の状態（運針状態やりゅうず首引き状態等）に関わらず、全ての状態で受信局切り替えができます。ただし、受信局切り替え表示をするのは、りゅうずが通常位置で通常運針している時のみです。
- ・受信局切り替えを行うと、前回受信した受信レベルはクリアされます。



3. 電波の受信方法

電波受信は**自動受信**（定時受信、復帰自動受信、復活自動受信）と**強制受信**があります。電波を正しく受信すると自動的に時刻、カレンダーが修正されます。

1. 定時受信：毎日午前2時から午前4時の間に、2～3回自動的に電波を受信します。
2. 強制受信：いつでも任意に受信ができます。
3. 復帰自動受信：パワーセーブ2が解除されると、自動的に受信状態に移行し電波を受信します。
4. 復活自動受信：充電不足で時計が停止した後、十分に充電されると復活自動受信に移行し電波を受信します。

4. 電波受信による時刻、カレンダーの合わせ方

何度か受信局を切り替えて受信し、受信しやすい局を選んでください。時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルを参考に受信しやすい場所及び、方向を探してください。受信する際は、時計を動かさないでください。

A. 電波受信(定時受信と強制受信)の方法

	定時受信	強制受信
(1) 受信方法	毎日午前2時から午前4時の間に、設定している受信局に、自動的に秒針が移動し、受信を開始します。	(A) ボタンを約2秒押すと、秒針が高速運針し、前回の受信結果(受信レベル)に移動した後、設定している受信局(RX)に移り受信を開始します。 注意：10秒以上押し続けると「0秒位置確認」に移行します。
(2) 受信中の各針の位置	秒針が受信中表示(RX)を表示した後、受信レベルに移動します。 分針は秒針に対応した位置で停止します。	
(3) 受信結果	受信が成功すると：受信結果にもとづいて、自動的に時刻、カレンダーが修正されます。 受信に失敗すると：受信前の時刻、カレンダー表示に戻ります。	
(4) 受信結果の確認	受信後(A) ボタンを押すと、秒針が高速で受信結果(受信レベル)へ移動し停止します。 ・10秒後、自動的に現在時刻に戻ります。また、(A)ボタンを押しても現在時刻に戻ります。	

B. 電波受信中は受信レベルを表示します

電波受信中は、受信状況に応じた受信位置に秒針が待機して、受信レベルを表示します。

受信レベル	記号	秒針の受信レベル表示位置	
		東局 (E)	西局 (W)
電波の受信レベルが高い時	H	6分位置	54分位置
電波の受信レベルがやや弱い時	M	9分位置	51分位置
電波の受信レベルが低い時	L	12分位置	48分位置

C. 電波受信結果を表示します

電波受信後に、受信レベルを確認することができます。

〈受信結果の確認方法〉

・(A)ボタンを1回押すと、秒針が高速で、受信結果に対応した位置に移動し、10秒間受信レベルを表示します。

注 意：2秒以上押し続けると、強制受信を開始します。

・10秒後、自動的に現在時刻に戻ります。また、表示中に(A)ボタンを押しても現在時刻に戻ります。

受信結果	記号	秒針の受信レベル表示位置	
		東局 (E)	西局 (W)
受信に成功した時			
高い受信レベルで受信した時	H	6分位置	54分位置
やや弱い受信レベルで受信した時	M	9分位置	51分位置
低いレベルで受信した時	L	12分位置	48分位置
受信に失敗した時	NO	15分位置	45分位置

D. 復帰自動受信

パワーセーブ2（秒針、分針が停止している状態）が解除されると、時計が記憶している時刻へ高速で復帰した後、自動的に受信状態に移行し電波を受信します。

- ・受信が成功した場合……自動的に時刻、カレンダーを修正し動き始めます。
- ・受信に失敗した場合……受信前の時刻へ高速で戻り、運針を始めます。

E. 復活自動受信

充電不足で時計が停止した後、十分に充電されると自動的に1回の復活自動受信を行います。

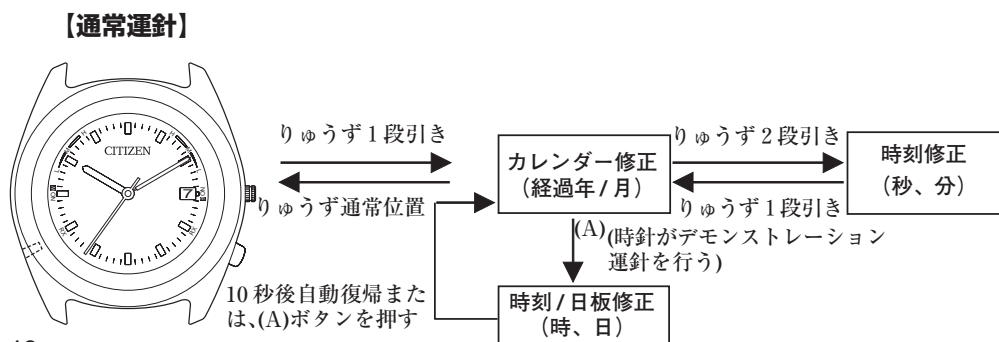
- ・受信が成功した場合……自動的に時刻、カレンダーを修正し動き始めます。そのままの状態でご使用になれます。
- ・受信に失敗した場合……時刻合わせ告知表示（変則2秒運針）になります。
この場合は強制受信または、手操作による時刻、カレンダー合わせを行ってください。

5. 手動による時刻・カレンダー合わせ

この時計は電波が受信できない場合でも、手操作での時刻・カレンダー合わせができます。

A. 表示切り替え

りゅうず及び、ボタン操作で次のように修正状態が切り替わります。



B. 秒と分の修正方法

- (1)りゅうずを2段引きすると、秒針が0秒位置まで高速運針し停止します。
 - ・0秒位置で停止しない場合は、「基準位置」を確認し、「基準位置合わせ」を行ってください。
 - (2)りゅうずを回して、「分」を合わせます。
 - ①右に回す(1クリック)と、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分運針します。
 - ②左に回す(1クリック)と、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分逆転します。
 - ・りゅうずを連続回転(2クリック以上)すると、秒針と分針が連続運針します。
 - ・連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに1クリックします。
- 注 意:**・分針に連動して時針も運針するため、秒針と分針を連続運針して時針を合わせることができます。また、時針に連動してカレンダーが切り替わります。
・2月30日や4月31日などの非存日は自動的に早送りします。早送り中は秒針と分針が12時で待機し、時針が連続運針し非存日を早送りします。
- (3)時報 (TEL.117)などに合わせて、りゅうずを通常位置に戻してください。

C. 経過年と月の修正方法

りゅうずを1段引きすると、秒針が「年（うるう年からの経過年）」と「月」の表示に切り替わります。

(1)りゅうずを1段引きすると、秒針が記憶している「年」と「月」の位置に移動し停止します。

(2)りゅうずを回して、「年」と「月」を合わせます。

①右に回して（1クリック）、「年（うるう年からの経過年）」と「月」に対応した位置に秒針を合わせます。

②左に回す（1クリック）と秒針が逆転します。

・りゅうずを連続回転(2クリック以上)すると、秒針が連続運針します。

・連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに1クリックします。

(例)

うるう年の12月の場合：0秒の位置に秒針を合わせます。

うるう年から3年経過した年の4月の場合：23秒（4時と5時の間）の位置に秒針を合わせます。

(3)年と月修正後、りゅうずを通常位置に戻してください。秒針が現在時刻に戻り、運針を開始します。

〈非存日に合わせた場合〉

日付を合わせた後、月を変更し日付が非存日になった場合、修正状態からりゅうずを通常位置に戻すと、日付が自動的に翌月の1日に切り替わります。

〈月と年の見方〉

☆月の見方

1月：1時と2時の間

2月：2時と3時の間

：

12月：12時と1時の間

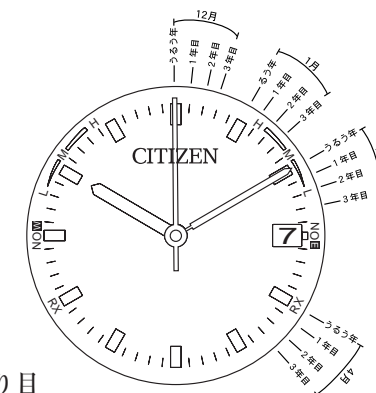
☆年の見方

うるう年：各月のゾーンの最初の目盛り

うるう年から1年目：各月のゾーンの1目盛り目

うるう年から2年目：各月のゾーンの2目盛り目

うるう年から2年目：各月のゾーンの2目盛り目



〈うるう年からの経過年早見表〉

年	経過	年	経過
2000年	うるう年	2004年	うるう年
2001	1年目	2005	1年目
2002	2年目	2006	2年目
2003	3年目	2007	3年目

D. 時と日付の修正方法

日付は時針に連動しているため、単独では修正できません。時針を連続運針して切り替えます。

時針と日付の修正は(A)ボタンを押してから30秒間または、運針終了後から30秒間修正ができます。

(1) りゅうずを1段引きします。

・秒針が記憶している「年」と「月」の位置に移動し停止します。

(2) (A)ボタンを1回押すと、時針がデモンストレーション運針後、「時」と「日付」の修正状態に移行します。

・秒針は、高速運針で現在時刻に戻り運針を開始します。

(3) りゅうずを連続回転し、時針を連続運針して「日付」を合わせます。

・「日付」は午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。

・「月」が小の月に設定されている場合、「日付」を30日から31日に切り替えても非
存日は、自動的に送られ翌月の1日を表示します。

(4) りゅうずを回して「時」を合わせます。

① 右に回す(1クリック)と、時針が1時間分運針(時計回り)します。

② 左に回す(1クリック)と、時針が1時間分逆転(反時計回り)します。

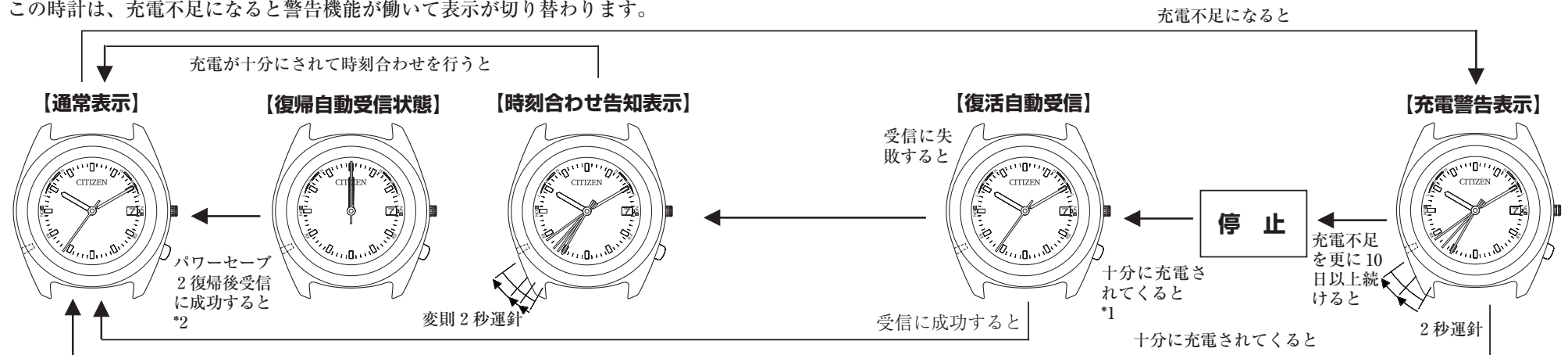
・りゅうずを連続回転(2クリック以上)すると、時針が連続運針します。

・連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに1クリックします。

注意:時刻修正する時は、午前、午後に注意して合わせてください。「日付」が切り替わったときが午前です。

6. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について

この時計は、充電不足になると警告機能が働いて表示が切り替わります。



*1. 充電不足で停止した場合、充分光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約 30 分かかります。

*2. 自動受信に失敗した場合は、受信前の時刻、カレンダー表示に戻ります。

A. パワーセーブ機能について

〈パワーセーブ1〉

ソーラーセルに光が当たらず、発電されない状態が連続して2時間継続し、秒針が0秒位置に来ると、秒針が停止して節電状態になります。

- ・分針は秒針に対応した位置で停止します。
- ・時針と日付は通常運針（3分運針）から1時間運針に切り替わります。

注意

受信は定時受信、強制受信とも有効です。ただし、強制受信を行った場合、スイッチ操作が行われるため、パワーセーブ1は解除されます。

〈パワーセーブ1の解除方法〉

ソーラーセルに光を当て発電を再開するか、りゅうず操作または、ボタン操作を行うとパワーセーブ1が解除されます。

- ・パワーセーブ1が解除されると各針が高速で現在時刻に戻り、1秒運針を開始します。

〈パワーセーブ2〉

パワーセーブ1が約3日間継続すると、更に消費電流を抑えたパワーセーブ2に自動的に切り替わります。

- ・各針と日付はパワーセーブ1の状態を継続します。

注意

毎日の定時受信は行いません。また、強制受信もできません。

〈パワーセーブ2の解除方法〉

ソーラーセルに光を当て発電が再開すると、パワーセーブ2が解除されます。

- ・秒針と分針が高速運針で現在時刻へ移動した後、復帰自動受信を行います。受信終了後1秒運針を開始し、通常運針に戻ります。
- ・りゅうず、ボタン操作ではパワーセーブ2は解除できません。

注意

- ・2秒運針（充電警告機能）や、変則2秒運針（時刻合わせ告知機能）の状態からでも、パワーセーブ機能に切り替わります。
- ・二次電池がフル充電され過充電防止機能が働いている間は、ソーラーセルに光が当らず発電が行われなくてもパワーセーブ機能は作動しません。また、急激な強い光によって一時的にフル充電になった場合も同様にパワーセーブ機能は作動しません。

- ・保管環境などによっては、パワーセーブ2解除後復帰自動受信を行っても受信に失敗することもあります。パワーセーブ2解除後、時計をご使用する前に強制受信を行うことをおすすめいたします。

B. 充電警告機能

ソーラーセルに光が当らず二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針（充電警告機能）に切り替わり、充電不足をお知らせします。この時も時計は正確に動いていますが、2秒運針を始めてから約10日経過すると、充電不足で時計は止まってしまいます。十分に光を当てて充電し、もとの1秒運針に戻してください。

注 意

- ・2秒運針している時は、手動での時刻、カレンダー修正はできません。
- ・定時受信、強制受信ともにできません。
ただし、受信局切り替えはできますが、受信局表示は行いません。
- ・オールリセット操作はできます。

C. 時刻合わせ告知機能

時計が充電不足で停止した後、再び光が当り充分充電されてくると、**復活自動受信**を行います。

- ・受信に成功すると、時刻が修正され秒針が1秒運針を始めます。
- ・受信に失敗した場合は、秒針が変則2秒運針（時刻合わせ告知機能）をして時刻が狂っていることをお知らせします。強制受信または、手動で時刻とカレンダーを合わせてください。
- ・時刻合わせを行わないと、変則2秒運針が続きます。

注 意

充電不足で停止した場合、十分光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約30分かかります。

D. 過充電防止機能

二次電池がフル充電されると、それ以上は充電されないように過充電防止機能が働きます。

7. ソーラーパワーウォッチ充電時間の目安

時計のモデル（文字板の色など）により充電時間は異なります。

あくまでも目安としてご利用ください。

※充電時間は連続照射時間です。

照度 (ルクス)	環 境	充電時間		
		1日分の 充電時間	停止状態から復活自動 受信するま での時間	フル充電 時間
500	屋内照明	約2時間	約65時間	-----
1,000	蛍光灯(30W)の下 60cm～70cm	約1時間	約31時間	-----
3,000	蛍光灯(30W)の下 20cm	約17分	約9時間	約99時間
10,000	曇天	約8分	約4時間30分	約45時間
100,000	夏の日の直射日光下	約6分	約3時間30分	約32時間

フル充電時間 時計が充電不足で停止している状態から最大に充電されるまでの時間。

1日分の充電時間 時計を通常運針で1日動かすのに必要な時間。

注 意

この時計は一度フル充電すると、充電しなくても約8.7年(パワーセーブ2状態のとき)は正確に時刻を刻み続けます。

ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかります。できるだけ毎日の充電を心掛けてご使用ください。

8 . ソーラーパワーウォッチ取り扱い上の注意

注意 充電上の注意

- ・充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので、高温下(約60℃以上)での充電は避けてください。
例) 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。
車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電。
- ・白熱灯で充電するときは、必ず50cm以上離して、時計が高温にならないように注意して充電してください。

警告 二次電池の取り扱いについて

- ・お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かないところに保管してください。
- ・万一、二次電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談して治療を受けてください。

警告 指定の二次電池以外は使用しないでください

- ・この時計用の純正二次電池以外の電池は絶対に使用しないでください。
他の種類の電池を組み込んでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池などの他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損及び人体を傷つける危険があります。
二次電池を交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

9 . 基準位置合わせ

時計に強い衝撃が加えられた時や、静電気の影響で基準位置が狂った場合などは、時計のすべての基準となる基準位置（0位置／12時位置）確認を行ってください。
秒針が正しい位置を示さない場合は、この基準位置がずれていることが考えられます。次の手順で各針の基準位置確認を行ってください。

A . 基準位置の確認方法

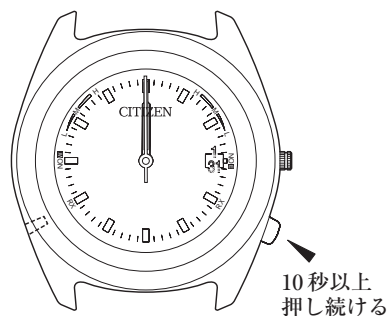
- (1)(A)ボタンを10秒以上押し続けます。
 - ・秒針が受信局へ移動した後、各針が基準位置（0位置）へ高速で移動し停止します。
 - ・日付は時計に連動して切り替わり、「31と1」の中間を表示し停止します。
- (2) (A)ボタンを約2秒押し、高速で現在時刻に戻ります。
または、2分以上ボタンまたは、りゅうず操作を行わないと自動的に現在時刻に戻ります。

注 意

各針及び、日付が基準位置を示さない場合は、基準位置合わせを行ってください。

B. 基準位置の合わせ方

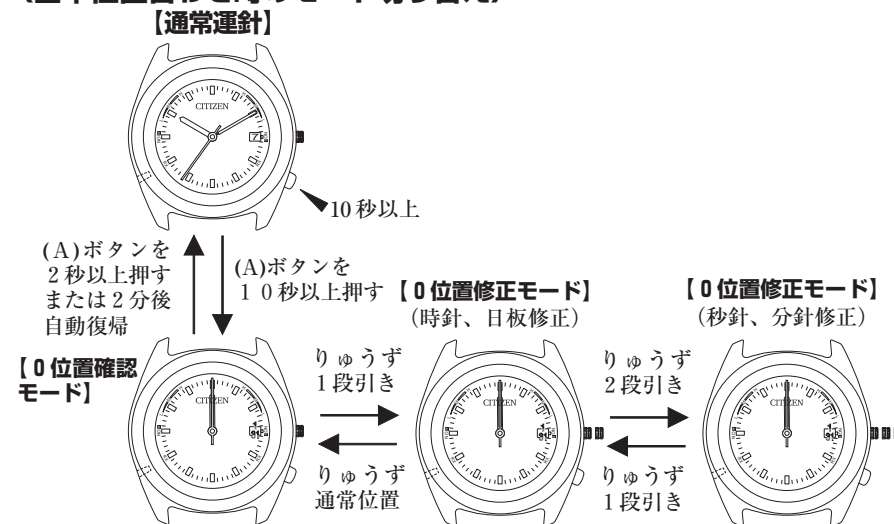
- (1)(A)ボタンを10秒以上押し続けます。
 - ・秒針が受信局へ移動した後、各針が基準位置へ高速で移動し停止します。
- (2)りゅうずを1段引きし、日付を「31と1」の中間に合わせ、時針を12時に合わせます。
 - ・りゅうずを連続回転し、時針を連続運針して「日付」を合わせます。
 - ・りゅうずを回して「時」を合わせます。
- (3)りゅうずを2段引きし、秒針と分針を12時に合わせます。
 - ・りゅうずを回して「秒と分」を合わせます。
- (4)りゅうずを通常位置に戻し、(A)ボタンを約2秒押しします。
 - ・各針と日付が高速で現在時刻に戻ります。



注意

- ・基準位置合わせ後は、必ず強制受信または、手動で時刻、カレンダーを修正してからご使用ください。

〈基準位置合わせ時のモード切り替え〉



10.オールリセットについて

静電気の影響や強い衝撃等により、時計の表示が狂うことがあります。このような場合にはオールリセット後、基準位置合わせを行ってください。

(1) りゅうずを2段引きします。

・秒針が記憶している基準位置に高速で移動して停止します。

(2) (A)、(B)ボタンを同時に押します。

・秒針と時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針を行います。

これでオールリセット操作は終わりです。オールリセット後必ず基準位置合わせを行ってください。

オールリセット後の注意

・オールリセット後、基準位置合わせを行うと、基準位置の記憶に1秒程度時間が掛かります。基準位置合わせ後、即りゅうずを引き出さないでください。

- ・オールリセット後、りゅうず1段引きと2段引き両方で、基準位置合わせ操作を行わないと、りゅうずを通常位置に戻しても秒針が停止したままの状態が続きます。
- ・オールリセット後、基準位置合わせの時刻は午前0時です。手動での時刻合わせの際は、午前、午後を間違えないように時刻、カレンダーを合わせてください。

11.このような場合には

状 況	確認ください	対処方法
受信できない（受信状態にならない）	<ul style="list-style-type: none"> 受信しやすい局が選択されていますか？ 秒針が受信局を指すまで(A)ボタンを押していますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> (B)ボタンを押して受信局を切り替え再度受信を行ってください。 (A)ボタンを約2秒押し、秒針が「RX」を指す事を確認し受信を行ってください。
受信できない（受信可能地域内で）	<ul style="list-style-type: none"> 電波をしゃへいする物やノイズを発生させる物が近くにありませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 本書「上手に受信をするために」及び「受信が困難な場所について」を参照ください。 部屋の模様替えなどによる受信環境の変化を確認ください。
受信されたはずなのに現在時刻と合っていない	<ul style="list-style-type: none"> 各針の基準位置が狂っていませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 本書「9.基準位置合わせ」を参照してください。 基準位置がずれている場合は、基準位置を正しく合わせ直してください。

12.セラミックケースについて

セラミックケースは、耐食性、硬質性に優れた性質を持っています。通常のご使用では特に問題はありませんが、硬いものにぶついたり、落としたりすると、割れたりカケたりすることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。

13.お取り扱いに当たって



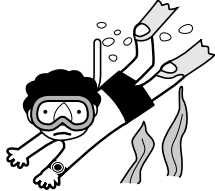


警告 防水性能について

- 日常生活用防水時計（3気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。
- 日常生活用強化防水時計（5気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキューバダイビング）などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計（10／20気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

防水性について

・時計の文字板及び裏ふたの防水性能表示をご確認の上、下図を参照して正しくご使用ください。(1barは約1気圧に相当します)

・WATER RESIST (ANT) ×× barはW.R. ×× barと表示している場合があります。

名称	表示		仕様	使用例				
	文字板	ケース(裏ふた)						
日常生活用防水時計	無表示	WATER RESIST (ANT)	3気圧防水	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST 5bar または無表示	WATER RESIST (ANT) 5bar または WATER RESIST (ANT)	5気圧防水	○	○	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST 10/20bar または無表示	WATER RESIST (ANT) 10/20bar または WATER RESIST (ANT)	10気圧防水 20気圧防水	○	○	○	×	×

注意

- ・水分のついたままりゅうずやボタンの操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- ・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活用強化防水時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起こすことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
- ・日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。
- ・万一、時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社サービスセンターへ修理、点検を依頼してください。
- ・時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、ボタンなど）が外れる危険があります。

注意 バンドのお取り扱いについて（着脱時の注意）

- ・バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

注意 携帯時の注意

- ・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分ご注意ください。
- ・激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- ・サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- ・ウレタンバンドは、衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするもの（衣類、バック等）と一緒に使用する場合はご注意ください。

注意 時計は常に清潔に

- ・ ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にご使用ください。
- ・ かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐに医師に相談してください。
かぶれの原因は
 1. 金属、皮革アレルギー
 2. 時計本体及びバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。
- ・ 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
- ・ バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。

<時計のお手入れ方法>

- ・ ケース、ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。

- ・ 皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。
- ・ 金属バンド／プラスチックバンド／ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いてください。
- ・ 溶剤類（シンナー、ベンジンなど）の使用は、変質の恐れがありますのでお避けください。

<ナチュライト付きの場合>

- ・ 「ナチュライト」は、放射線物質などの有害物質を一切含まない人体や環境に安全な蓄光性の物質を使用した夜光塗料です。
ナチュライトは、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。
ただし、蓄えた光を放出させるため、時間の経過と共に少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。また、光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間に誤差が生じます。
光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

<温度について>

- ・ -10℃～+60℃から外れた温度下では機能が低下したり、停止することがあります。

<磁気について>

- ・ 磁石には近づけないでください。磁気健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア・バックの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気に近づけると時刻が狂います。この場合は磁気から離して時刻修正をし直してください。

<静電気について>

- ・ クオーツウオッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示が狂うことがありますのでご注意ください。

<ショックについて>

- ・ 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- ・ 化学薬品・ガス中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含むもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には充分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

<保管について>

- ・ 長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。
- ・ 時計を長期間ご使用にならない場合、できるだけ光が当たる場所で保管することをおすすめします。

14.保証とアフターサービスについて

<保証について>

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・ボタン・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

<ご転居・ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、最寄りの弊社サービスセンターにご相談ください。

<定期点検（有償）について>

安全に永くご使用いただくために、2～3年に一度、点検（有償）を行ってください。防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。部品交換の際は、純正部品をご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社サービスセンターにご相談ください。

<その他お問い合わせについて>

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または、弊社サービスセンターにご相談ください。

15.製品仕様

1. **機種**：A410
2. **型式**：アナログソーラーパワーウォッチ
3. **時間精度**：平均月差±15秒（非受信時） 常温+5℃～+35℃ 携帯時
4. **作動温度範囲**：-10℃～+60℃
5. **表示機能**：
 - ・時刻：時、分、秒
 - ・日付
6. **付加機能**：
 - ・電波受信機能（自動受信、強制受信）
 - ・受信局切り替え機能
 - ・受信中表示機能
 - ・受信結果確認機能
 - ・受信レベル表示機能
 - ・受信中レベル表示機能
 - ・光発電機能
 - ・パワーセーブ機能（パワーセーブ1／パワーセーブ2）
 - ・充電警告機能
 - ・時刻合わせ告知機能

7. **持続時間**：
 - ・フル充電～時計停止まで
 - ：約8.7年（パワーセーブ2状態のとき）
 - ・充電警告表示～時計停止まで：約10日
8. **使用二次電池**：二次電池 1個

*製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。